

# ジャーナリスト 安田 菜津紀さん

1987年神奈川県生まれ。認定NPO法人 Dialogue for People (ダイアログフォーピープル/D4P) フォトジャーナリスト。同団体の副代表。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『国籍と遺書、兄への手紙 ルーツを巡る旅の先に』(ハウレーカ)、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。



シヨカニ避難民キャンプは、この年の12月時点で5000人ほどが暮らしていました。2年以上が経ち、多少は日常が取り戻されているかと思いきや、なんとキャンプ人口はむしろ増え、1万6000人以上が今も暮らしているとキャンプマネージャーは語ります。「学校などの避難所や親せき宅に一時的に身を寄せていた人たちがキャンプに移り、人口は増えていきました。完全にキャパオーバー状態です」とため息をつきます。「当初、ここで支援活動が続いていた人道支援団体も、予算がもうない、ウクライナが最優先」とここを去っていき、状況は

以前より悪化してしまっています。『人道』って何なのですか?」

## キャンプ内で

2019年末に訪れた際は、凍える気候で雨が降り、人々はぬかるんだ大地の上でのテント生活を余儀なくされていました。季節が廻り、今度は熱波がこの地を襲っています。6月でも日中の気温は40℃を上回り、頭を圧する強烈な日差しの下、ドライヤーの熱風のような風は、テントの中央まで容赦なく迫ってきます。

「こんなところに暮らしてみなさいよ。蒸し暑さだけの家の中より、風が吹く外にいた方がまだマシよ」

キャンプ内の通路を歩いていると、水汲みに来た女性たちが口々に生活苦を訴えています。飲み水にも洗濯にも使用する小さな水タンクを10家族が共同で使っているため、夏場はとも水が足りないといえます。子どもたちとあてのない避難生活を送っているという一人の父親が、私にこう語りかけてきました。

「なぜ、私たちが置かれている状況は、ウクライナほど世界の関心を集めないのでしょうか? 私たちの目の色や、肌の色が違うからでしょうか? 私たちが信じている宗教が異なるからなのではないでしょうか?」

## 「支援の格差」「命の格差」

2022年2月、ウクライナへのロシアの軍事侵襲後、私も現地を訪れ、破壊された街の惨状を目の当たりにしました。戦火から逃れるウクライナの人人々にも、支援が必要であることは間違いありません。

一方、この世界には確かに、「まなざしの格差」が存在しています。シリアで起きていることが日本で報じられることはほとんどなく、報道の格差に直結します。そしてそれは決して、日本も例外ではありません。

ウクライナ侵襲後、日本政府は避難者の受け入れに手を挙げました。宿泊施設を提供したり、資金的に援助したり、それらはとても大事なことですが、ウクライナ以外の国や地域から逃れてきた人々への支援はどうでしょうか?

その前年にあたる2021年、日本政府が認定した難民はわずか74人、難民認定率はなんと0.7%と極めて低い数字でした。その審査体制は今も、変わっていません。

今年シリアでは、12年以上の戦争に追い打ちをかけるような事態が起きました。2月6日、大地震が1帯を襲い、隣国トルコと合わせて死者は5万人を超えました。

3月、シリア北部の街、コバニを訪れました。震源から100キロ以上離れているにも関わらず、崩れたアパートなどが散見されます。ただ、中心地を歩いていても、それが戦場の爪痕なのか、正直見分けがつかない。地震があった日の早朝、地響きと共に大地が揺れ始めたとき、誰しもが「空爆だ」「砲撃だ」と身構えたといいます。

街を歩いてみると、「どこから来たんだ?」「よく声をかけられます。日本から来たか?」とよく声をかけられます。日本から来たか?と答えると、皆「平和で豊かな国なんだろう」と語りかけてきます。命の線引きをする社会が本当に「平和」なのか、足元から改めて、見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

## どんなに歯が痛くても

「支援の格差」「命の格差」に直結します。そしてそれは決して、日本も例外ではありません。

## 本当に「平和」なのか

政府による支援の格差は、安易な命の線引きをしてはほかならないような価値観を放置しているとも言えるでしょう。

今年シリアでは、12年以上の戦争に追い打ちをかけるような事態が起きました。2月6日、大地震が1帯を襲い、隣国トルコと合わせて死者は5万人を超えました。

**境界線を越えた**

**平和な世界を目指して**

安田菜津紀が副代表をつとめる認定NPO法人 Dialogue for People. 取材やメディア発信など「伝える」活動を通じ、さまざまな社会課題に光をあて、共に生きていくための「対話」のきっかけを生み出します。

「伝える」を「支える」ことから、世界とつながる

**マンスリーサポーター募集中!**

継続的なご寄付は「伝える」活動を支える大きな力になります。弊会は認定NPO法人です。ご寄付は寄付金控除等の対象になります。単発でのご寄付も可能です。詳細はウェブサイトをご覧ください。

Dialogue for People [検索](#)

<https://d4p.world>

# 休業保障制度

12月1日加入・9月中旬まで申込受付中!

## 入院でも自宅療養でも給付

入院は免責なしで初日から、自宅療養は免責3日で通算500日までは繰り返し給付を受けられます。

## 給付は最長730日の充実保障

500日を超えて引き続き休業している場合は、連続230日まで給付されます。

資料請求・問い合わせは共済部まで

## 新型コロナウイルス感染症

### 給付金請求の留意点

5月8日の類型見直し以降の発症・休業について

今年5月8日以降に感染症を発症し休業給付金を請求される場合は、休業期間中に親族以外の第三者の医師に受診し、主治医から制度所定の「医療証明書」をお取り付けください。医療証明書がない場合は給付対象になりませんのでご注意ください。